

藤山地区地域計画

素敵な未来の創生に向けて



令和5年3月

藤山地区コミュニティ運営協議会

藤山地区自治会連合会

はじめに

素敵な未来の創生に向けて

～ 多様な世代が協働し、

将来にわたって輝き続ける 藤山地区を ～

最近の社会状況については、ポストコロナを見据えた対応が進み一部では明るい兆しが見受けられますが、一方では、藤山地区も高齢化率が30パーセントを超えるなど人口減少と超高齢化は、今後も更に進展する勢いです。

我々の社会生活は、すべてにおいて『ひと』と『ひと』とが支えあい、素晴らしい調和の上に成り立っていますが、人口減少と高齢化の問題は、国の将来にも大きく関わってくる喫緊の課題であり、その影響は地域で生活している私たちの身にも大きくのしかかってくることは間違いありません。

例えば、地域づくりにおいては、コミュニティ・自治会等の役員の高齢化や地域を支える担い手不足などによる地域活力の低下などが随所に見受けられます。

このような中で、藤山地区は、時代を担っていく若者にも地域に積極的にかかわっていただくなど、幼・保・小・中・高・短大・大学・大学院などの教育機関等が揃った市内でも屈指の『文教地区』である強みを生かし、明るく希望のある藤山地区を『チイキのチカラ』で創生していくため、この地域計画を策定しました。

これから、我々がどのようにして未来ある若者といっしょに何をしていけるのかを考えながら、地域住民が一丸となって、将来にわたって住みやすい藤山地区の創生に向けてはじめの一步を踏み出したいと思えます。

最後になりますが、この計画策定にあたり、アンケート調査等により数多くの貴重なご意見、ご提言をいただきました地区の皆様を始め、回収等でお世話いただいた皆様、また地区内の教育機関の関係各位に対し、心から感謝しお礼申し上げます。

令和5年3月吉日

藤山地区コミュニティ運営協議会 副会長 山本 美穂

目 次

1	藤山地区の概要	1
2	人口と世帯数	1
3	現状と住民の声について	
(1)	地区の現状	2
(2)	住民の声	2
4	まちづくりの方向性と重点的な目標	
(1)	藤山地区のまちづくりの方向性	6
(2)	重点目標	6
①	若者で活気あふれる文教地区“藤山”	6
②	持続可能なまち“藤山”	7
③	健康で笑顔あふれるまち“藤山”	7
④	高齢者にも子育て世代にもやさしいまち“藤山”	8
⑤	安心・安全で快適なまち“藤山”	8



1 藤山地区の概要

藤山地区は、宇部市の西部にあり、南を瀬戸内海、東は市街地、北は霜降山につながる丘陵、西側は厚東川に囲まれ面積は7.86 km²です。

明治22年に藤曲村と中山村が合併し、藤曲の『藤』と中山の『山』をとり『藤山村』が誕生しました。当時は、石炭、米等を廻送する廻船業・漁業・農業等が繁栄していました。昭和6年には宇部市と合併し、今日に至っています。

地区内にJR宇部線・小野田線と居能・岩鼻の2つの駅、さらに国道190号線が通り、車の往来も激しく、南側は近代的な化学工場が立ち並んでいます。

また、文京町を中心に広がっている幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院などの教育機関等が充実している市内屈指の『文教地区』でもあります。

2 人口と世帯数

藤山地区	世帯 (世帯)	人口 (人)	年少	生産年齢	高齢者人口	高齢化率 (%)
			~14歳 (人)	15~64歳 (人)	65歳~ (人)	
平成25年	5,081	11,510	1,648	6,929	2,933	25.5
平成30年	5,104	11,096	1,416	6,389	3,291	29.7
令和5年	5,105	10,612	1,231	6,146	3,235	30.5

(各年の1月1日の数値)



3 現状と住民の声について

この計画を策定するにあたって、多くの地区住民の方々の声を反映させるため、全世帯アンケートを実施、さらに文教地区ならではの各種教育機関やその生徒・学生などと意見交換を実施し、地区の現状と課題の把握に努めました。

(1) 地区の現状

- 地区内に、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院が揃っている市内屈指の『文教地区』です。
- 近年、各種行事（環境衛生活動、スマホ教室、ふるさとまつり等）で住民と中学生、高校生、大学生との交流が増えました。
- 空き家があちらこちらで見受けられるようになってきました。
- 藤山地区は、低地と丘陵に分かれ、それぞれ特性が異なります。
- 近年、地区の高齢化率が30パーセントを超えました。

(2) 住民の声

昨年実施した全世帯アンケート（提出世帯数 585 世帯）によると地区で取り組むべき課題として、空き家(24.8%)、交通(20.9%)、環境問題(14.9%)、防災(14.7%)、持続可能なまちづくり(12.6%)がアンケートの上位になりました。また、自由記述欄には次のような意見があげられました。

空き家について。

- 空き家の所有者に対して、強力に指導等を実施して欲しい。

交通について

- 年齢とともに免許返納が増えるため、もっと交通の便を良くして欲しい。
- JRに自転車と共に乗車出来るようにして欲しい。
- 歩行者や自転車が安全に通れるように整備をして欲しい。
- 細い道は時間帯などで一方通行や通り抜け禁止にしたらどうか？
- 平原の歩道橋付近の交通安全対策。歩道橋の柱で視認性が悪く、事故が多発している。様々な分析をして、歩道橋の必要性を精査して欲しい。
- 排水溝の網やふたがないところがあり、危ないと感じることがある。

環境衛生について

- 他市からの転入者です。宇部のごみ分別は徹底していてごみステーションも大変きれいで関心しています。道もきれいでいいですね。すばらしいことも住民に伝えるとうれしい気持ちになり、続けるきっかけになります。
- 草刈りをして欲しい箇所がある。また、木やハーブを植えて欲しい。
- 自治会未加入者が無断でごみステーションにごみ出しをするのが問題。



- プラごみ、電池の分別の徹底。(分別の不徹底による当番の過重な負担)
- ごみの分類をごみステーションにわかりやすく表示する。
- ごみ出しルールが自治会によって違うので何とかして欲しい。私は仕事が朝早いので当日出すのはきついです。前日夕方からなら良いのでは？
- 清掃等みんなで良くするため取り組んでいただいで感謝しています。
- 自治会のごみステーションの運営について悩んでいる。
- ごみの出しすぎを感じる。草木は良く乾燥した後に出して欲しい。

防災について

- 『まちの減災ナース』を入れた防災活動が実施出来れば良いなと思います。

持続可能なまちづくり

- 高齢者が多くなり地域の役をする人が年々大変です。
- 人材の登録制について、検討してみてもいかがでしょうか。(各種の活動団体の引継ぎが出来ないので、人材を求める方策が必要である。)
- 超高齢世帯が多く、役員等に選任されても会合等に出席出来ない現状にある。もう少し合理的な運営を検討して欲しい。(会議や活動等の棚卸)
- 自治会や地区の会計を民間会社に委託した方が良いと思います。
- 自治会の再編を考えたらいかがか。(高齢化で活動が困難になっている。)
- 藤山地区の財産である教育施設をもっと活用して、持続可能なまちづくりを進めて欲しい。
- 配布資料のペーパーレス化に取り組んで欲しい。
- 他地区に比べ指導者が少ない気がする。
- コミの脆弱さを感じる。お金を出して住民に十分なサービスを提供して欲しい。一方、自治会へ還元しゼロベースでリスタートするのも一つの手法。
- ふれあいセンターでの行事、自主運営教室の宣伝をしっかりと。
- 自治会役員等のふれあいセンターへの提出書類は土日も受け付けて欲しい。また、自治会運営に対しても相談にのって欲しい。
- 地域が行っている活動は、将来の人口減少、人口構成を考慮して少しずつ変化すべき時に来ていると思います。
- 地域団体役員(自治会含む)等の高齢化問題を解決すべき。
- 働き盛り、子育て世代に自治会等の運営を委ねるなら、自治会等のIT化に反対しないで欲しい。



文教地区について

- 藤山は文教地区であるから、地域と学校とのつながりをもっと深く取り組むとよいのでは？特に大学と地域を望む。
- 藤山地区の財産である教育施設をもっと活用して、持続可能なまちづくりを進めて欲しい。(既出)
- 宇部フロンティア大学で生活に役立つ公開講座をして欲しい。
- 学生（生徒、児童、園児も含む）と一緒に認知症の人を理解するための劇団を作ってはいかががでしょうか？

健康について

- ふれあいセンターで高血圧等生活習慣病、認知症予防に関するセミナーを開催して欲しい。
- 学生（生徒、児童、園児も含む）と一緒に認知症の人を理解するための劇団を作ってはいかががでしょうか？(既出)
- 子どもへの虫歯教育はとてもわかりやすく良いと思いました。(乳幼児のつどい)
- 減塩レシピ、手軽な運動を毎月藤山だよりに掲載して欲しい
- 歯科の適切な検診頻度、歯磨きの時間、歯間ブラシの有益性や具体的な使用方法など教えて欲しいです。(子育て世代)
- 健康について地域あげての取組をお願いします。一朝にしてならず。日頃からの蓄積が大切です。
- 健康の記事を小さくても良いので藤山だよりへ毎月掲載して下さい。
- 高齢者の健康教室の宣伝をもっとして欲しい。(知っている人が少ない。)
- 健康づくりを実践できる施設、教室があるが、高齢者サロンが少ないので地区として推進していただきたい。

子育てについて

- 子育て支援センターがあると良いと思います
- 子育て世代をターゲットにしたイベント企画、交流行事。
- 高齢者対策も必要ですが、視点を変えて子どもや若い世代が元気になれる様なことはないでしょうか。最近、中学生が清掃作業に参加したり、スマホ教室に中学生、高校生を講師に迎える等良い発案、試みだと感じました。
- 子どもへの虫歯教育はとてもわかりやすく良いと思いました。(既出)



- 地区の子どもと大人（特におじいちゃん、おばあちゃん）が関わられるような活動がたくさんあるといいなと思いました。もっと、大人が子どもに教えるような機会があれば、交流も生まれると思います。
- 三段池が危ない。整備して子どもが遊べる様な場所にして欲しい。公園に遊具が少ない。親子と一緒に出かけられる散歩スポットがあると嬉しい。
- 歯科の適切な検診頻度、歯磨きの時間、歯間ブラシの有益性や具体的な使用方法など教えて欲しいです。（子育て世代）（既出）

高齢者について

- 高齢者対策を他地区の取り組みを参考にして充実させて欲しい。
- 高齢者が安心安全に暮らせるよう独居の方などの所在確認システムの構築。
- リモートやグループチャット等、様々なツールを活用し、コロナ禍でもコミュニティを大切にす。高齢者は新しい事に触れる事で脳が活性化する。一人暮らし高齢者の安否確認にもつながる。
- 地区の子どもと大人（特におじいちゃん、おばあちゃん）が関わられるような活動がたくさんあるといいなと思いました。もっと、大人が子どもに教えるような機会があれば、交流も生まれると思います。（既出）
- 地域の住民や高齢者、認知症患者やそのご家族などが気軽には入れて交流が出来る様なカフェがあるといいと思います。
- 高齢者の移動手段について考えて欲しい。（コミュニティタクシー含）
- 高齢者の健康教室の宣伝をもっとして欲しい。（既出）

その他

- 地域の人間関係を若いうちからつなげていけたら良いですね。
- 藤山の宝である史跡や歴史を聞く機会が欲しいです。単発ではなく継続的に。
- 弱い立場の人にそっと手を差し伸べる様な地区になって欲しい。
- 地域住民同士、よく挨拶を交わし声をかけ合いましょう。
- みんなの声かけで、子どもの貧困やヤングケアラーをなくしましょう。
- 地域の宝 JR 宇部線をみんなで守って下さい。存続活動に協力したい。
- 藤山地区にスーパーマーケットが欲しいです。
- アンケートをインターネットでやれば、もっと若者の意見が聞けた。
- 藤山だよりの『季節によせて』の文章が良いと思います。出来れば続けて欲しいと思います。



4 まちづくりの方向性と重点的な目標

アンケートでは、様々な現状や課題等が浮き彫りになりましたが、それらを踏まえて藤山地区の明日の元気のために以下のとおり取り組んでいきます。

(1) 藤山地区のまちづくりの方向性

少子高齢化が進行していく中で、市内屈指の文教地区としての強みを生かし、あらゆる世代がいっしょになって協力することにより、将来にわたって輝き続ける藤山地区を目指します。

(2) 重点目標

次の5つの目標を掲げ、重点的に取り組みます。

- ① 若者で活気あふれる文教地区“藤山”
- ② 持続可能なまち“藤山”
- ③ 健康で笑顔あふれるまち“藤山”
- ④ 高齢者にも子育て世代にもやさしいまち“藤山”
- ⑤ 安心・安全で快適なまち“藤山”

① 若者で活気あふれる文教地区“藤山”

幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、短期大学、大学、大学院などの教育機関等が揃っている当地区は、地域と教育機関等がタッグを組んで連携を密にした『文教地区』を目指します。

地区としては、地区内の教育機関で学ぶ児童・生徒・学生が、地域の良さを感じ取れる取り組みを行います。また、教育機関等と連携を密にした地域活動を積極的に推進していきます。

具体的な取組

地区の環境衛生活動（ごみ拾い）、体育祭、ふるさとまつり（文化祭）、ウォーキング大会等にボランティアスタッフ等として参加するよう教育機関などに積極的に働きかけをすることにより参加の定例化を図ります。“若い力に感動と感謝の日々”



② 持続可能なまち“藤山”

アンケートにも取り上げられていますが、地区役員の高齢化が加速しています。過去を踏襲した今までどおりの地域運営では、いずれ限界が来てしまいます。役員等の若返りや新規の人財確保を段階的に図り、時代のニーズに呼応した手法で地域運営に取り組める環境づくりを推進します。

具体的な取組

市の地域活動応援事業者制度の活用で新しい地域人財を発掘するなどして、地域役員等の段階的な若返りを図るとともに人財バンクの創設も検討します。併せて中学生、高校生、大学生などの協力の下、地域独自のスマホ教室等を実施し、若い力で地域のデジタル化を推進します。“変わることで強くなる”



③ 健康で笑顔あふれるまち“藤山”

地区住民の健康状況のデータを分析し、罹患率数の多い既往症に対する地区全体での取り組みによって健康づくりを推進します。

○ 生活習慣病と認知症の予防

当地区では、生活習慣病の罹患率、アルツハイマー型認知症で受診している人の割合が比較的多い状況です。生活習慣病は、心疾患や脳疾患などの重大な疾患につながりやすく、要介護状態の人に多い疾患です。また、認知症を発症すると社会生活や日常生活に支障をきたします。

具体的な取組

健康教室、高齢者サロン、はつらつ健幸ポイントの普及、藤山だよりへの記事の掲載（生活習慣、運動、減塩レシピ等）などで予防に取り組んでいくことで、地区住民の健康の向上を図ります。

また、地区全体へ健康づくりの意識醸成を図るため、平日の朝にふれあいセンターでラジオ体操を実施します。“凡事徹底”

○ むし歯予防

当地区の子どもは、むし歯を保有している確率が高くなっています。1歳6か月検診では平均並みですが、3歳児検診頃からむし歯になる子どもの割合が増加しており、学童期、思春期ともに市内でも高い状況にあります。歯の健康は、栄養状態や運動機能にも影響を与え、健康寿命にも関わってきます。子ども達はもちろんのこと、地区民全体が自らの健康を守る意識を向上させるためにも、むし歯予防の取組が必要となっています。

具体的な取組

健康教室、子育てサロン、藤山だより等での歯磨きの広報啓発活動等を推進します。また、市専門職の協力を得て、歯磨き指導等をするとともに小中学校と連携した取組をします。“みんなで声かけ 虫歯予防”



④ 高齢者にも子育て世代にもやさしいまち“藤山”

当地区は高齢化率が30%を超えましたが、他地区の取組みを参考に地区の子どもと高齢者が関われるような活動など多様な活動や高齢者サロン、子育てサロンの充実化が求められています。

具体的な取組

地域の集会所等を活用した高齢者サロンや子育てサロンを推進します。また、その内容の充実化を図ります。また、他地区の取組の成功事例を参考に藤山地区独自の取組を検討します。“世代間の心のキャッチボールを”

⑤ 安心・安全で快適なまち“藤山”

アンケートでは空き家、交通、環境問題、防災が地区で取り組んで欲しい問題として上位にあげられました。問題解決のため、地域の実情に応じた取組みを推進し、『安心・安全で常に幸せを感じられる藤山地区』を目指します。

○ 空き家について

当地区でも空き家があちらこちらで見受けられるようになりました。空き家は犯罪の温床になる可能性があるばかりではなく草木の繁茂による環境悪化や台風等の強風で瓦等が飛散する危険性もあります。

具体的な取組

空き家となった土地等が利活用出来ないかなど、市等行政の関係部署など多様な主体と連携して、検討を行います。また、防犯等の啓発活動も積極的に実施します。“不都合な真実に目を伏せない”

○ 交通について

当地区は比較的道幅の狭い道路が多いため、多くの住民が不便や危険を感じています。また、公共交通機関が整備されていない地域があり、地域内交通等の充実化が求められています。

具体的な取組

春・夏・秋の交通安全運動期間を中心に交通安全啓発活動を実施します。ハード面については住民の生の声が届くように道路管理者等と連絡を密にします。“役割と責任を自覚し、協力しあって現状打破”

○ 環境について

ごみステーションに関する問題が各所で発生しています。

具体的な取組

市と連携したごみステーションに関する相談の推進や正しいごみ分別等の啓発活動、研修を実施します。“真剣に、一生懸命に、丁寧に 率先励行”

○ 防災について

当地区の低地と丘陵とでは特性が大きく異なります。それぞれの特性に応じたきめ細やかな防災対策が必要になってきます。

具体的な取組

自主防災会による防災研修会や住民の手による防災活動先進地の視察など防災学習の充実化を図り、近隣の幼稚園、小学校、中学校と連携して地区の防災訓練を実施します。また、『減災ナース』との連携を推進します。

“災害は忘れた頃にやって来る。知識と備えは常にアップデートを”



過去が笑っている今

未来のつぼみで一杯な今